

いては初期（～外縁紐1式）には韓半島産、それ以後は中国華北産が使用されたとする。その後、研究で産地についても再考する動きもある。

同様に最初に入ってきた鉄器は鑄造鉄斧の破片で、中国東北部で製作されたものが韓半島を経由して日本列島内に持ち込まれたものである。その後、中国・中原地域で作られた鑄鉄脱炭鋼や炒鋼、そして韓半島で作られた塊鍊鉄が加わる。

4. まとめ

近畿地方中央部は弥生時代中期に青銅器生産を行っていた。なかでも銅鐸を量生産化し（図5.6）、他地域に分配したものと思える。いわゆる特産品といえるものであった。

河内平野中部の3つの集落群（河内湖東岸部遺跡群、同南岸遺跡群、平野川・長瀬川流域遺跡群）について金属器関連遺物の分布状況を概観したところ、鬼虎川・瓜生堂遺跡ではそれぞれ1箇所、亀井遺跡では2箇所の集中する弥生時代中期の居住域があり、青銅器鑄造関連遺物に加えて鉄器も多く出土する。中期後葉頃になると、八尾市亀井遺跡周辺ではそれまでの銅鐸生産に加え小型の青銅器生産、新たに鍛冶炉を用いた低温ではあるが鍛造加工、いわゆる「鉄鍛冶」が開始する。

近畿地方中部においていち早く河内平野中部が中国東北部で作られた鑄造鉄斧片を工具として導入した理由として、青銅器生産に伴う石製鑄型製作（芋本1982）や、鉄鑿などは鑄上がった未製品の切り離しや鑄バリ取りにも使用されたと考えられる。また鉄鑿は金属だけでなく、それら容器（図4・34.35）製作などの木工具としても適している。

銅鐸が出土する場所に目をやると生産地の近畿中央部を除くと海浜部に多いことがわかる（図5.6）。水路を通じたの交易が伺われる。特に多数の銅鐸が発見された場所は、島根県加茂岩倉遺跡をはじめとする日本海側と松帆銅鐸群が出土した淡路島である。鉛同位体測定で導きだされた青銅器原料や各種鉄製工具も韓半島から輸入したもので、それらを手に入る集団に銅鐸を供給もしくは交換していたと考えてもいいのではなかろうか。そこには丹後と淡路島の海人（坂江渉2018）が水路により青銅器や鉄器（図7）の輸送に関与したことを想起させる。両海人の関係性を認めうるならば、一つ主要な交易ルートとして、日本海―丹後―由良川―氷上回廊―加古川―淡路島―大阪湾が考えられよう。このルートは弥生時代後期においても認めてもよいであろう。

現在、大阪府下の弥生時代の金属器生産を考える上で注目されている場所は淡路島である。特に私が考える注目点は、亀井遺跡や瓜生堂遺跡に接する巨摩廢寺からも貨泉が出土しているが、興味深いことは、世紀の大発見と呼ばれる松帆銅鐸のある南あわじ市の入田稲荷前遺跡では貨泉が出土し、すぐそばの幡多遺跡からは破碎された大阪湾型銅戈が、また荒目遺跡からは河内産の土器片（中期後半）が出土するなど（的崎2018）、河内平野中部との関連性が伺われることである。同様に洲本市下内膳遺跡でも青銅器片（定松2009）や河内産簾状文壺が出土するなど河内平野中部との関連性が伺える。今後は淡路島を経由した韓半島と河内平野との「物・人・カネ（貨泉）」の交流について検討を進めたい。

注

芋本隆裕 1982「第四章金属器関係遺物の考察四.鑿状鉄器」『鬼虎川の金属器関係遺物・第7次発掘調査報告2-』(財)東大阪市文化財協会

岩永省三 1980「弥生時代青銅器型式分類編年再考」『九州考古学』No.55九州考古学会

大澤正己 1982「第6章鉄鏃と鑿状鉄器の冶金学的調査」『鬼虎川の金属器関係遺物・第七次発掘調査報告2-』(財)東大阪市文化財協会

大澤正己 1988「西ノ辻遺跡第七次調査出土鉄鏃の金属学的調査」『西ノ辻遺跡・鬼虎川遺跡』東大阪市教育委員会他

大澤正己・鈴木瑞穂・菅井裕子・渡辺智恵美 2001「VI.久宝寺遺跡出土遺物の自然科学的調査」『久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ⅲ』(大阪府文化財調査研究センター調査報告書第60集)

坂江渉 2018「国生み神話と淡路の海人の習俗」『ひょうご歴史研究室紀要』第3号兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室

定松佳重 2009「淡路島出土の青銅製祭祀について-大阪湾型銅戈の出土を通して-」『考古学の視点 兵庫発信の考古学』間壁葎子先生喜寿記念論文集刊行会

沢田正昭 1986「亀井遺跡出土銅鏃等の材質に関する調査」『亀井(その2)』(財)大阪文化財センター

難波洋三 2011「銅鐸群の変遷」『豊穰をもたらす響き 銅鐸』(大阪府立弥生文化博物館図録45)

野島永 1992「破碎した鑄造鉄斧」『たたら研究』第32・33号たたら研究会

野島永 2009「弥生時代鉄器文化論」『初期国家形成過程の鉄器文化』雄山閣

野島永 2014「日本古代における鉄器鑄造をめぐって」平成23-25年度科学研究費助成事業(基盤研究(C))研究成果報告書『考古学からみた中世鑄物師の総合的研究』課題番号:23520946代表研究者:松井和幸(北九州市立自然史・歴史博物館)

馬淵久夫・平尾良光「鉛同位体比からみた銅鐸の原料」『考古学雑誌』第68巻第1号

松岡良憲・山口誠治・岩立美香 2007「瓜生堂遺跡出土の大阪湾型銅戈並びに久宝寺遺跡出土青銅製品」『稲作とともに伝わった武器』(大阪府立弥生文化博物館図録35)大阪府立弥生文化博物館

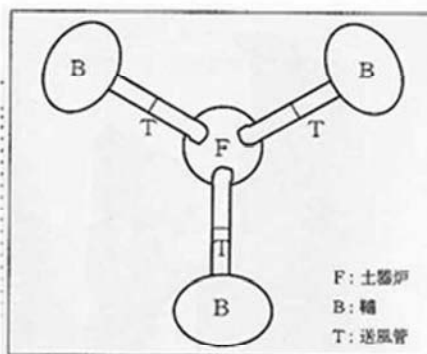
的崎薫 2018「入田稲荷前遺跡出土の貨泉と淡路島南部の拠点集落」『弥生時代の金属文化(青銅器・鉄器)からみた淡路島の遺跡の特異性』(古代学研究会4月例会資料)古代学研究会 なお、的崎氏からは河内産の弥生時代土器(IV様式)が荒目遺跡以外にも南あわじ市河内遺跡、洲本市下内膳遺跡からも出土しているとのこと教示を得た。

村上恭通 1992「朝鮮半島の副葬鉄斧について」『信濃』第44巻第4号 信濃史学会

吉田広 2017「青銅器のまつり」『弥生時代で、どんな時代だったのか?』(国立歴史民俗博物館研究叢書1)朝倉書店

若林邦彦 2001「弥生時代大規模集落の評価-大阪平野の弥生時代中期遺跡群を中心に」『日本考古学』第12号日本考古学協会

①愛媛大学



②交野市



写真1 鑄造・鍛冶実験